

られます。ところが現在は、獣害の発生する農耕地に隣接する林地はその多くが放置されて、暗い自然林状態、あるいは藪となっています。これは野生動物が姿を見られずに近づき、追われても逃げ込むことが容易で、野生動物の側にとつては農地に出やすい環境となっています。

畠には沢山食べ物があり山で少ないエサを探すより楽に採れる。

過疎化・高齢化が進行、狩猟者の減少などで追払いの危険が減少し、里が安心な餌場になつてゐる。

集落・農地の周囲に隠れ揚となる山林が接近。

里山の放置、耕作放棄地の増加で里に出来しやすい環境になつてゐる。

三重県の調査では現在、

肉食獣は食物連鎖の中の強者のようですが、捕食する動物に依存して生きています。何らかの理由で生態系にゆがみが生じて捕食する動物が減れば、たちどころに生きていかれなります。

だが、シカのような草食獣は適応力が大きく、山の草が少なくなればこれまで口にしなかつた植物や落ち葉まで食べて生

# 野生動物の嫌がる 村つくり

サルによる農作物被害は、三重県で年間被害額1億5000万円に上り、全国トップとの中日新聞の記事。

被害が急増したのは最近10年ほどのことで、昔は今ほど出なかつたというところがほとんどです。

「10年前まではサルが山から下りて来ることなんてなかつた」。ではこの10年間で何が変化したのでしょうか。

個体密度が高い地域は被害も多発しています。それらの地域を中心に捕獲駆除を視野に入れた、被害対策を早急に講じていく必要があります。

背の高いシカは、地  
から2m近い高さまで  
植物を食べることが出来  
食べるものなくなると、  
ち葉まで食べ尽くすと  
われています。一方ノ  
サギは、せいぜい地上  
100mぐらいの高さに

農業への被害が問題になつてゐるイノシシ、サル、シカはいずれも山林に生息し、その山林に接した中山間地域の被害が深刻化していますが、これは山林の利用のしかたが変わったことに一因

地を伐採・活用し、農地と野生動物の生息場所の緩衝地帯としての機能を回復させることが、獣害抑制に大きな効果がある

と思います。

高齢化に伴う集落機能の低下で人間との緊張関

住民の被害抑止への意欲  
向上と、獣害対策を重視  
した環境整備が急務だと  
思います。

る植物しか食べること  
出来ません。これでは  
ウサギは生きていけ  
せん。ノウサギがいな  
なるということは  
れを主要な餌とし  
いる猛禽類にも影  
が及ぶことを意味

# シカ急増と生態系



## 『フクロウ』シカネットに絡む

3月7日シカネットにフクロウが絡んでいると「MDC島山さん」から連絡。「鳥をよく識っている」人を呼び、ご近所の人たちのご協力で、無事放鳥することが出来ました。

今後、非対称動物に影響を及ぼさない対策も講じなければならないと痛感しました。防鳥用ピカピカテープなどどうでしょうか？

MD 訓練士養成

成講習も開始以  
6ヶ月。悪戦苦  
成訓練士 MD  
のなか順調に経  
しておりますが  
年度をまたぐ繼  
予算は執行でき  
いということで  
年度末でMD育成  
練は一旦打ち切り  
25年度予算の執  
後（7月頃）再  
となるそうです。

気がします。人間との間の緊張関係は常時要で、それがなくなれど、人間の生活圏を犯するようになります。今のことろ、人的被は出ていないが、転ば先の杖、早急に対策をとらねばなりません。

## サルの出没状況

サルの出没状況 名張A・B群	
餌不足のため、比較	冬枯れで、 リア内の餌が 足しているので、 広範囲に餌を めて小頭数で 動している。
餌の豊富な場所に集中	青蓮寺湖付 ダントツに多 のはなぜかな。
ているようです。B群	B群
は、家屋に侵入するた の悪いのが何頭かおり きな被害を出していま 両群とも人慣れが進み 間との緊張関係がなくな っています。これから 「本気で追い払う」よ 心がけて下さい。「し しつ」ではサルにあな られるだけです。	んだ模様。 ☆A群で有名な白猿は

月というブランクは非常に痛い！。年度をまた継続的な予算が組めなものか？」と。  
講師からの総評では訓練の現状は、「訓練「く」の段階」だといふ。訓練参加者は、互いに職業を持ちながら、「地域のために」との思いら、貴重な時間をさい受講に参加しているとうことを、皆さんに知てもらいたいと思いま決して犬好きの道楽はありません。

サル被害が拡大するか、中山間地域は一日早い訓練士誕生を望んでいます。

人店

立入禁止

滑り出し  
「順調」

者之声。

今、「」の3

訓練参

